



# 予防接種で赤ちゃんを守りましょう! おとなの風疹

風疹は、風疹ウイルスに感染して発症します。発熱、発疹、リンパ節の腫れが主な症状で、子どもは比較的軽い症状です。ところが多いのですが、おとながかかると症状が強く現れることがあります。また、妊娠中の女性が感染すると、先天性風疹症候群の赤ちゃんが生まれる心配があります。免疫のない人は進んでワクチン接種を受けましょう。

**3日程度で自然に軽快  
成人では長引くことも**

風疹は、感染者のくしゃみや咳で風疹ウイルスが空気中に飛び散り、それが体内に入って感染します（飛沫感染）。流行しやすい季節は3～5月頃です。

ウイルスの潜伏期間は2～3週間、発症すると37～38℃の発熱、顔や首から全身に広がる赤い発疹、耳の後ろのリンパ節の腫れなど、麻疹（はしか）に似た症状が現れます。

20週目を境に低くなってきます。

風疹に感染した妊婦の赤ちゃんのすべてが、先天性風疹症候群を発症するわけではありませんが、安心して出産を迎えるために、妊娠する前に風疹ワクチンの接種を受けて免疫をつけておくことが大切です。妊娠中はワクチン接種は受けられませんので注意してください。

**2回のワクチン接種で  
確実に免疫をつける**

風疹にかかると、風疹に対する免疫ができます。風疹の既往がない場合、予防法として確実なのはワクチン接種です。1回のワクチン接種で免疫ができる割合は95～99%と考えられ、2回接種することによって、より確実に免疫を獲得することができます。

現在、「1歳児」と「小学校入学前1年間の幼児」に麻疹・風疹混合ワクチン（MRワクチン）の定期接種制度が導入されていますが、それまでは時代によって状況が異なりました（表）。

昨年（2013年）、20代～40代の

子どもの場合、症状は比較的軽く、3日程度で自然に軽快することから、俗に「三日ばしか」とも呼ばれています。ごく軽い場合は、かぜと勘違いして、風疹にかかった自覚がないまま治ってしまうこともあります。

おとながかかった場合は、ときに高熱が出たり、発熱や発疹が長引いたり、関節炎を伴うなど、症状が強く現れることがあります。

風疹に対する特別な治療はなく、安静にして回復を待ちます。ただし、まれに合併症として脳炎や

男性を中心に風疹が大流行しました。その中には、予防接種を受けなかった人が多くいると思われる。

また、風疹は、似たような症状を現す他の病気とまちがえて診断されやすく、「子どもの頃、風疹にかかったからワクチンを受けなかった」という人も注意が必要です。風疹に免疫があるかどうかは血液検査（抗体検査）で簡単にわかります。もし免疫がなければ、自分の健康を守るためにも、また妊娠を予定している人は特に、元気な赤ちゃんを迎えるためにも、女性、男性（夫、パートナー）ともに、できるだけ早くワクチンを接種しておきましょう。

風疹ワクチンの接種は、最寄りの内科や小児科で受けることができます。費用は、定期接種の年齢

監修



国立感染症研究所ウイルス第三部  
風疹担当室長

森 嘉生 先生  
(もり・よしお)

●略歴

1998年、岐阜大学農学部獣医学科卒業。2002年、同大学大学院連合獣医学研究科修了。同年、大阪大学微生物病研究所研究員。'04年、同研究所分子ウイルス分野助手。'07年同助教。'10年より国立感染症研究所ウイルス第三部第二室（風疹担当室）室長。獣医学博士。

**妊娠初期の感染に注意  
先天性風疹症候群**

血小板減少性紫斑病などが起こることもあるので、子どももおとなも侮らなないようにしましょう。

妊娠している女性（特に妊娠初期）が風疹にかかると胎児に感染して、難聴、心疾患、白内障、精神や身体の発達の遅れなど、先天性風疹症候群と呼ばれる障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。その可能性は、妊娠12週までが60～90%と最も高く、

以外は自己負担となりますが、自治体によっては、成人女性や妊婦の夫などを対象に、接種費用の一部または全額を助成するところもあります。

確認してみましょう

あなたの誕生日は?	男性	女性	ワクチン接種状況
2000（平成12）年4月2日以降に生まれた人	「1歳児」と「小学校入学前1年間」に個別接種（2回）		
1990（平成2）年4月2日～2000（平成12）年4月1日	「幼児期」と「中学1年生相当年齢」もしくは「高校3年生相当年齢」に個別接種（2回）		男女とも要確認。2回目の接種率が低い。
1987（昭和62）年10月2日～1990（平成2）年4月1日	幼児期に個別接種（1回）		男女とも要確認。幼児期に接種する機会があったが、受けていない人や1回の接種だけでは免疫が不十分な人もいる。
1979（昭和54）年4月2日～1987（昭和62）年10月1日	中学生で個別接種（1回）		男女とも要注意。集団接種ではなく個別接種（個別に医療機関で受ける）になったため接種率が低い。
1962（昭和37）年4月2日～1979（昭和54）年4月1日	接種機会なし	中学生で学校での集団接種（1回）	男性は接種機会がなかったのに特に注意。
1962（昭和37）年4月1日以前に生まれた人	接種機会なし		

※1983（昭和58）年4月2日～1992（平成4）年4月27日までに生まれた人は、幼児期に麻疹ワクチンの代わりにMMRワクチン（麻疹・おたふくかぜ・風疹の新三種混合ワクチン）を選択接種。